

創立20周年記念号

「人口急減社会の現実と持続可能な地域づくりへの展望」の構成について

執筆者一同

地域社会は人口減少と少子化・高齢化の進展の真っ直中にあります。その対策として「地方版総合戦略」が県、市町村で策定されてはや3年が経過いたしました。しかし、地方圏での人口減少、首都圏への人口流入は止まらず、もはや、人口減少の歯止め策としての「総合戦略」は有名無実化するのではないかと私たちは危惧しております。

この間、「総合戦略」に基づく政策の多くが、人口減少の緩和のみを目的として強調され過ぎたのではないかと、換言すれば、人口減少論が過度に先行したため、人口を減らさないためにどうするか議論に終始し、その後の展望が不足していたのではないかと、これが本記念号を企画した問題意識です。

私たちは、誤解を恐れずに言えば、人口減少を所与の条件として冷静に受け止め、この現実に対して地域社会がいかなる展望を持ち、対応を取るべきか、熟慮する必要があると考え、本20周年記念号を「人口急減社会の現実と持続可能な地域づくりへの展望」と題して、下記のとおり構成いたしました。

はじめに、「現状認識」を整理した上で、私たちが重要と考える四つのカテゴリーについて展望も含めた「施策提言」を記載しております。読者の皆さまから多数のご批評をいただければ幸いです。

記

- 現状認識 2030年までに想定される環境変化と人口減少の議論
 - (1) 2030年を展望して
 - (2) 人口減少問題をめぐる論点
- 施策提言 1 地域エネルギー資源の利活用は地域産業振興の起爆剤
 - ・風力発電による地域産業振興
- 施策提言 2 人口減少下における観光交流人口の拡大・地域活性化
 - (1) 東北へ外国人観光客を呼び込め
 - (2) バリアフリー観光の推進で高齢者の旅行需要を取り込め
- 施策提言 3 少子化・高齢化社会への対応
 - (1) 超高齢社会における介護サービスの持続可能性
 - (2) 子どもを取り巻く環境から子ども・子育て支援のあり方を考える
 - (3) 増加する空き家への対応
 - (4) 廃校を地域の拠点として活用
- 施策提言 4 財政悪化等に対応した新しい資金調達
 - ・クラウドファンディングは地域活性化の切り札となりうるか？